

1 保護者アンケートより

内 容	（%）		
	思う	思わない	わからない
①お子さんは、学校へ行くことを楽しみにしていますか。	88.8	11.3	0.0
②お子さんは、進んであいさつができていますか	66.5	27.1	6.5
③お子さんは、きまりを守って生活できていますか。	77.5	18.6	5.4
④教師は、子ども一人ひとりを大切にしていると思いますか。	83.1	10.1	6.9
⑤教師は、わかりやすい授業を工夫していると思いますか。	70.6	7.7	21.7
⑥教師は、保護者からの相談に真剣に応じていると思いますか。	90.2	5.6	4.2
⑦学校は、生命や人権などを尊重する「心の教育」を大切にしていると思いますか	79.2	9.5	11.3
⑧学校は、子どもたちが、地域の人たちと交流する機会を設けるように努力していると思いますか。	61.8	21.4	16.8
⑨学校での様子を、「学年だより」や個人懇談でお知らせしていますが、内容が十分に伝わっていますか。	89.1	8.8	2.1
⑩学校はいじめについて、十分指導していると思いますか。	64.0	10.4	25.7

考 察

約90%の児童が楽しく学校に通っているとの回答である。また、「保護者の相談に真剣に応じてくれる」や学校での様子が学年便り等で内容を十分に理解しているとの回答が90%である。個々の教師が子供たちのことに真剣に向き合い、保護者の理解を得ていると考えることができる。学年便りや個人懇談を大切に思い、真剣に取り組む教師の姿勢が感じ取れる。しかし、子供たちは挨拶が進んでできていないと感じている保護者27%いることから学校教育全体でも、挨拶の大切さや心の教育を進めていく必要がある。コロナ禍で子供たちの交流学習や地域への参画が少なくなっていることから、地域交流ができていないと感じている回答も38%（わからないを含める）あると想像できる。今年は、講演会や演奏会があって子供がとても感動したとのコメントもいただき、今後様々な体験や交流を進めていきたいものである。

2 児童アンケートより

内 容	（%）
	できた (だいたいできたを含む)
進(すす)んであいさつができましたか。	79.8
歩(ある)いて登下校(とうげこう)ができましたか。	76.6
ぼうしをかぶって登下校(とうげこう)ができましたか。	96.2
外(そと)で遊(あそ)びましたか。	80.6
体力(たいりょく)づくりの取組(とりくみ)ができましたか。	84.0
飛(と)び出(だ)しをせず、交通(こうつう)ルールはまもれましたか。	98.0

ともだちの話(はなし)をしっかりと聞きくことができましたか。	88.0
みんなと、仲(なか)よく学校生活(がっこうせいかつ)が送(おく)れましたか。	85.5
そうじを一生(いっしょう)けんめいできましたか。	93.3
学校(がっこう)のきまりをまもって生活(せいかつ)できましたか。	85.8
学校(がっこう)は、楽(たの)しいですか。	84.4
なかよしの友(とも)だちがいますか。	96.2
授業(じゅぎょう)はよくわかりますか。	93.5
先生(せんせい)は自分(じぶん)ががんばったことをほめてくれましたか。	87.0
こまったときに相談(そうだん)できる人(ひと)がいますか。	82.0
家(いえ)に帰(かえ)って学校(がっこう)での話(はなし)をよくしましたか。	67.6
学校(がっこう)には楽(たの)しい行事(ぎょうじ)がありますか。	96.2
あなたのまわりにいじめはありますか。	ないの% 67.3

### 考察

どの項目についても、「できている」「だいたいできている」と回答している児童が80%を超えている。ほとんどの児童が仲良しの友達もいて学校に来るのが楽しいと感じていることがわかる反面、数%いる残りの児童にも関わることでできる学校である必要がある。そして、その中で「家に帰って学校での話(をよくしましたか。）」の項目では67%と低くなっている。社会体育や学習塾で子供自体が忙しいということも原因の一つでもあると想像できる。しかし、昨今のゲームのしすぎやパソコンやスマホでも動画サイトの閲覧も原因ではないかと考えられる。家庭と連携して時間の制限等の措置を考えていかなければならないと感じる。

### 3 教師自己評価アンケートより

(%)

項 目	あてはまる (おおむねあてはまるを含む)
子どもたちに、学年に応じた基本的な学習習慣が身に付くよう指導している。	100.0
子どもたちは、授業が楽しいと思っている。	100.0
学習の基礎・基本の定着を図る指導に努力している。	100.0
体験を取り入れたり、教材・教具を工夫したりするなど、わかる授業・楽しい授業づくりに努めている。	100.0
単元末のテストなどで、おおむね満足できる学力の者が80%を超える。	86.7
指導力向上のための研修をしている。	100.0
教職員自ら率先してあいさつをし、子どもたちにあいさつの声かけができている。	100.0
本校の子どもたちは、進んであいさつができている。	86.7
子どもたちは、学校に来るのを楽しみにしていると思う。	100.0
教師と児童、児童相互の信頼関係を築くことができている。	100.0

子ども一人一人を見つめ、長所をほめるなど、子どもが自分に自信がもてるように気を配っている。	100.0
仲間はずしやいじめ、不登校の問題に常に気を配っている。	100.0
子どもたちに、基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。	100.0
子どもたちは、学校のきまりを守って生活できている。	93.4
給食を残さず食べる子が80パーセントを超えている。	93.4
体育の時間等で、体力向上をめざした指導ができている。	93.4
本校は、教育目標や学校(学年)行事等について、分かりやすく伝えている。	100.0
保護者・地域の願いに応え、信頼関係を築くよう努めている。	100.0
地域の人と交流する学習を実施しようとしている。	80.0
本校は、保護者や地域との連携を密にしようとしている。	93.4
いじめがないよう指導し、子どもたちが安心して生活が送れるよう努力している。	100.0
ワークライフバランスの推進に向けて、勤務について考えている。	80.0
実際に、退庁時間や勤務時間について意識して行動している。	73.4

## 考察

「確かな学力」の育成においては、ほとんどの自己評価において概ね満足できるという回答であった。また、「豊かな心」の育成においては、進んで挨拶できていないと13.3%の教職員が回答している。これは保護者のアンケートでも約30%の保護者が進んでできていないという結果から、今後挨拶が進んでできる児童の育成のために具体的な方策を考えていくことが重要になってくる。また、自己評価においても「地域との連携」において、できているが80%にとどまっている。これが、4年前からのコロナ禍における交流学習や集会活動の中止を余儀なくされた影響と考えられる。今後、元の状態に返しながらか地域と連携を深めていかなければならない。

教職員の自己評価において、「ワークライフバランス」部分に課題があるという結果になっている。「ワークライフバランス」を考えている」が80%、「退庁時間や勤務時間を意識している」については、73.4%にとどまっている。今後、具体的な働き方改革案を考えるとともに教職員の意識を変えていく必要がある。